

住民に健康被害も

悪臭対策へ厳しい指導を



中森辰一議員の質問

3月10日

2003年度予算特別委員会 経済環境関係

西区福島町の万谷化製場は、長年、周辺に悪臭を出し続け、地域住民に大変な迷惑をかけてきました。中森議員は予算委員会であらためてこの問題を取りあげ、市に厳しく対応するよう求めました。

度重なる行政指導にもかかわらず 問題解消に至らず

市は、これまでも万谷化製場に対し、年間30回程の悪臭物質測定、立ち入り指導、脱臭装置や排ガス・排水処理などの改善勧告をしてきました。しかし施設の老朽化などのために、現在も悪臭問題の解消に至っていません。

公共施設が望まれている隣接市有地への 移転計画に地元住民が猛反発

地元住民はこれまでもくりかえし、他地域への移転を万谷化製場に要請。しかし会社側は、現工場に隣接する市有地(食肉市場跡地)の約3分の1を市から譲ってもらって、そこに新築移転するとの考えを明らかにしました。

これに対し地元住民は、いっせいに反発。「同じ地域内、しかも、公共的な施設ができることを望んでいた市有地に移転を考えるとほとんどない」と怒りの声をあげています。

市がおこなった行政指導

- 2000年 市の悪臭測定で悪臭物質が基準を超えて検出。脱臭装置の補修、原材料の適切な取り扱いなどについて改善勧告
- 2001年 排ガス処理方法に関する改善勧告
- 2002年 廃水処理方法の改善による悪臭防止対策を指導

札幌市では2キロ離れていても住民の反対運動

札幌市のはずれに新しい化製場ができていますが、工場から2キロ離れたところに団地があります。

この化製場ができる前は、その2キロ離れた団地の住民が「悪臭を出す工場は来るな」と建設反対運動を起こしました。まして、今回のように人家が密集している地域への化製場の新築は、法律(化製場法:略称)の精神に反し、地元が拒否するのは当然です。

「設置許可権をもつ部局と連携して とりくむ」と市が約束

地元住民の声をうけて中森議員は、「地元はよそへ移転してくれと言ってきた。それが困難で、当面いまの場所での操業を続けたいのであれば、老朽化した建物と設備の抜本的な改善が必要。相当の費用がかかっても悪臭防止に最大限とりくむ以外にない」と指摘。「健康被害さえ訴える住民もいる。設置許可権を持つ社会局(保健所)とも連携し、これまで以上に厳しい指導が必要」と市に強く求めました。

市は、設置許可を持つ部局と連携して問題解決に取り組むと答えました。

市営住宅の 高齢化対策

日本共産党の
要求で実現



2003年度予算特別委員会 建設関係

中森辰一議員の質問 3月11日

さらに積極的な高齢化対策を

廊下型中層住宅へのエレベーター
02年度から14基を設置予定

空き部屋のバリアフリーに
80戸分を予算化

02年度3基、03年度4基

市「残り7基も早急にとりくむ」

3階以上の対策も考えよ

中森議員はこれまで、高齢化する市営住宅の対策の柱として、中層住宅へのエレベーター設置を繰り返して求めてきました。

市は、空き部屋のバリアフリー化を80戸分を予算化したと答弁。しかし中層住宅の3階以上に住む高齢者の対応については答えることができませんでした。

そうした中で02年度から廊下型の中層住宅にはエレベーターをつけることになり、計14基を設置する計画で、今年度は3基、来年度は4基設置する予算が組まれています。

中森議員はさらに、高齢になり階段の昇降に支障が出れば室内に閉じ込められる人が増えると指摘。市民生活を守るべき行政の考えを重ねていただきました。

中森議員の再度の質問に市は、財政が厳しいとしながらも、「あと7基も早期に設置できるよ」とりくむと答弁しました。しかし、中層住宅の中でも圧倒的多数の階段型の中層住宅にはエレベーターを設置する計画はありません。これに対して中森議員は、既存の住宅をより長く使おうというなかで、今後中層住宅の高齢化対策をどう考えているのかたがたしました。

市は、「福祉部門と連携しながら進める」と答えました。同議員は、スムーズに高齢化住宅に移れる仕組み作りも必要と提案しました。

中森議員は、西区観音新町の中層住宅のように、各階の玄関口踊り場の奥に空間がある構造のものは、階段を残さないバリアフリー化が可能であると指摘し、積極的な検討を要望。これに対して市は、「階段型でも各階玄関口の高さにエレベーター入口が造れる所は、現地調査と住民の意向調査を行う」と答えました。

日本共産党街頭演説会

上田耕一郎副委員長

4月4日(金) 午後12時10分
本通り叶屋まえ

市田忠義書記局長

4月7日(月) 午後6時半
金座街入口(福屋横)